

“頭の中をPOSに！” 特別編

鹿児島にて今年2回目の『頭の中をPOSに！』開催決定！

『頭の中をPOSに』のワークはとても人気のワークです。

患者対応技術の全てを学ぶ事ができる大変ためになるワークで、今までに参加された多くの方が、『目からウロコでした！』とアンケートに答えてくださっています。このワークを通じて、いつもの自分の思考手順と、『頭の中がPOSに！』になっている場合の思考手順の違いを体感してください。短い対応時間の中で、患者さんが抱えている問題点(プロブレム)を瞬時に見極め、そのプロブレムのベストな解決方法を判断し、最適のケアを提供するための患者対応技術がぎゅぎゅと詰まっています。薬剤師としての総合力を確実にアップできます！
皆様の積極的なご参加をお待ちしています。

《 服薬ケア研究会第49回例会開催要項 》

日本薬剤師研修センター認定研修(3単位)

日時：平成21年12月13日(日) 10:00~16:00

場所：鹿児島市勤労者交流センター(よかセンター) 第1会議室
(〒890-0053 鹿児島市中央町10番地 キャンセ7階 tel:099-285-0003)

内容： [講義]岡村先生による講義
[演習]「頭の中をPOSに！」特別編ワーク

岡村先生が直接チューターをされ、実践に即した詳しい解説をさせていただきます。

講師：服薬ケア研究会会頭 岡村祐聡(おかむらまさとし)先生

参加費：服薬ケア研究会会員 3,000円 非会員 5,000円
(同時入会で参加費は会員料金になります)

募集人数：ワーク席15名、オブザーバー席35名 合計50名限定(先着順)
(参加費入金をもって正式受付となります。お早めにお申し込みください。)

問合せ先：服薬ケア研究会事務局 〒305-0042 茨城県つくば市下広岡410-78

ホームページ <http://www.fukuyaku.net/> FAX 03-6368-6058 E-MAIL:jimukyoku@fukuyaku.net



隣接するキャンセ駐車場がご利用になれます。(有料) できるだけ公共交通機関をご利用ください。

<第49回例会(12/13鹿児島)に申し込みます> FAX:03-6368-6058(同内容のメールでも承ります)

お申し込みいただきましたら、折り返し参加に関する詳細なご案内を差し上げますので、メールアドレスまたはFAX番号をかならずご記入ください。

(ふりがな)

氏名： _____ 電子メール： _____

(自宅・勤務先)

住所：〒 _____

(自宅・勤務先)

(自宅・勤務先)

電話： _____ FAX： _____

勤務先： _____ 職種： _____ 会員の方は会員番号 番
研究会会員： はい・いいえ

参加希望席： ワーク席 ・ オブザーバー席

同時入会を希望しますか？ はい・いいえ

(* をつけてください。)

頭の中を POS に！ (特別編) とはどんなワーク？

すべての薬剤師に必ず学んでいただきたい
大変学習効果の高い演習です！

この頭の中を POS に！ (特別編) のワークは、岡村先生のご著書「薬局薬剤師の患者対応」(p78～83)、「患者対応技術の実践法」(p32)などに紹介されているワークで、**薬剤師の実力をつけるための総合演習として最適なワークです。**このワークに20回から30回参加すれば、薬剤師として一流の思考力と患者対応力を身に付けることができます。現在現役で活躍するすべての薬剤師の方にご参加いただきたい演習であると考えています。現在、服薬ケア研究会がこのワークの研修会を全国各地で開催しておりますが、用いる症例は毎回新たに作っておりますので、同じものは一つもありません。何度参加されても勉強になります。何度でもご参加いただきたいと思います。薬学部6年制の実務実習指導薬剤師の実力アップにも最適です。



このワークでは、模擬症例を用いて患者役の方と実際に対応をしながら、「どのように患者対応を組み立てていくのか」を学びます。実際には3～5分程度で終わってしまう患者さんとのやり取りを、3時間以上かけてじっくりとディスカッションしながら、組み立てていくのです。特にこの「特別編」では、岡村先生が直接チューターを務めてくださいますので、「服薬ケアステップ」(患者対応を効果的に進めていくための方法論)を、まさに実践しながら学ぶことができます。

このとき、15名のワーク席の参加者は対応する薬剤師役となり、チューターとやり取りしながら**プロブレムを探し、最適なケアを考察して行きます。**ワーク席の参加者は、自ら意見を述べたり、チューターより発言を求められたりします。したがって、自分自身で実際に症例に取り組み、最適なケアを組み立てる思考訓練を行いたい場合には、ワーク席をご希望下さい。

オブザーバー席の参加者は、基本的にはワーク席の参加者がケアを組み立てていく様子を周りで見学する形になります。チューターから指名され、発言を求められることはありません。講師が適宜必要な解説をはさんでいきますので、目の前のやり取りを聞きながら、落ち着いて「どのように考えれば良いのか」を学ぶことができます。そのため、指されることにより緊張することなく、しっかりと考え方を学ぶことができます。さらにオブザーバー席の方は、チューターより指されることはありませんが、自分で意見を述べたいときには挙手して意見を述べるすることができます。したがって、ワークの流れに自分の意志で参加することは可能ですので、ただ単に「見ているだけ」ではありません。そういう意味で緊張しやすい人であったり、しっかりと学びたい人の場合は、ワーク席での参加よりも、オブザーバー席で参加した方が勉強になるという方もいるでしょう。

ワーク席の参加者は、ディスカッションに直接参加しながら交代で実際の患者対応も行います。患者対応の組み立てだけでなく、コミュニケーション技法を用いて、患者さんとのやり取りをその場で行いますので、「服薬ケアステップ」の考え方を学ぶだけでなく、「服薬ケアコミュニケーション」の実践練習を同時に行うことができます。

このように、ワーク席、オブザーバー席、どちらの参加でも、とても勉強になります。

なお、参加される方は、必ず自分が使い慣れた薬や病気に関する参考書などを持参してください。このワークは考え方を学ぶワークですので、知識があやふやでは思考を組み立てることができません。(主催者側では特に添付文書などは用意しませんので、必ずご自身でご持参下さい。)